

新年を迎え、年度の目標を達成する総仕上げに尽力

五 霊 台

五霊中学校だより
平成三十年年度第二号

平成30年12月25日
文責 米村

初夢と富士山に見る 日々の努力の大切さ

平成三十年も最後の一週間となりました。来週はいよいよ平成最後の年がスタートします。

生徒の皆さんは、通知表などを参考に、二学期の反省を行い、三学期に備えることとなります。日本の社会制度では、学校や会社は四月スタートの三月、つまり平成三十年度は、平成三十一年一月一日を迎えても変わらない仕組みです。三学期は、この平成三十年度に目指した目標を達成する最後のチャンスです。一学期や二学期に達成できなかった目標にチャレンジし、夢を叶えるための一歩としましょう。



年賀状にもよく使われている富士山。標高3776mは日本一の高さを誇る。ユネスコによって世界文化遺産にも登録され、日本人だけでなく海外の観光客にも人気。



世界ジオパーク認定の阿蘇山。北側からの眺めは仏様の寝姿になぞらえて「涅槃像」と呼ばれている。面積380km²のカルデラは世界一の広さで、市町、駅が存在し駅列車も走る。

日本人は新年を迎えて、縁起を担いできました。「一富士二鷹三茄子」ランキングキングベスト三です。いずれも江戸幕府の開祖徳川家康の好きなものと言われています。また、富士無事、鷹は高い、茄子は成す、と言葉をかけて、夢が見事に叶うとした人々の願いだと思えます。

日本人だけでなく、世界的にも有名になった富士山。周囲に山のない独立峰としての美しさを支えているのは、周囲約一五三kmにも及ぶ土台です。このことは、私たちが生きるために必要な夢（目標）を叶えるためにも必要なことです。目標が高いほど、日々の土台づくりが大切なのです。毎日の授業や家庭学習の積み重ねが進路希望を叶える道であり、あと一歩前に進むためのきつい練習が、大きな部活動の大会で勝利をつかむための土台となるわけです。新年を迎えるにあたり、初心に帰り土台づくりの大切さと、毎日実践できる計画を立てていきましょう。



日本人は新年を迎えて、縁起を担いできました。「一富士二鷹三茄子」ランキングキングベスト三です。いずれも江戸幕府の開祖徳川家康の好きなものと言われています。また、富士無事、鷹は高い、茄子は成す、と言葉をかけて、夢が見事に叶うとした人々の願いだと思えます。

熊本には富士に負けない阿蘇がある

ところで、私たちの暮らす熊本県には、富士山にも負けない山があることを知っていますか。高岳・中岳・根子岳・烏帽子岳・杵島岳の阿蘇五岳を中心とした阿蘇山です。標高こそ一五九二m（ヒゴクニ肥後国と合わせる）と高さではかきません。しかし、火口の一部ともいえるカルデラの広さは世界一といわれています。現在も、そのカルデラの中で多くの人々が生活しています。熊本地震の大きな被害にも負けることなく、生きる目標に向かって日々努力を続けています。現在、地震で被害を受けた国道57号線や、JR豊肥線の復旧が待たれます。

新たな年を迎えるにあたり二つの山を紹介してきましたが、この二つの山を並べると、夢を叶え、人生を成功させるための常識が浮かび上がります。挨拶・掃除・服装・時間、どれも五霊中生徒にとって馴染みの深いもの。校是や生活三訓で意識してきたものです。改めて二学期の生活を振り返り、自分自身で達成度を点検。これからの生活でうまく実践できるようにこの冬休みで準備しておきましょう。縁起の良い初夢が見れることも祈ります。

★ 人生の成功を引き寄せ、夢を叶えるため ★

- 1 あ……挨拶
学校生活はもちろん、様々な社会での第一歩。今、最も重要視されているコミュニケーションの基礎となるもの。
- 2 そ……掃除
自分自身を磨くためにも、環境を整え勉強・仕事の効率を高めるためにも、熱心に黙々と実践。
- 3 ふ……服装
時・場面・目的を考えて最適の身だしなみを。初対面の相手ほど見た目にこだわる。
- 4 じ……時間
時間を守れなければ他人の信用を勝ち取ることはできない。そして、時間こそ人々に平等に与えられているものである。

「再び帰らぬ 時なれば
このひと時に 命燃やさん」

裏面もご覧ください

熊本市学校環境緑化コンクール☆祝 北区賞受賞

本年度、五霊中学校では、第五十四回熊本市学校環境緑化コンクールに挑戦しました。二学期に行われた審査の結果、見事に北区賞（KKT賞）を獲得することができました。一部の新聞やテレビニュース等で報道もされましたが、額入りの表彰状も頂きましたのでここに紹介しておきます。

生徒会の環境緑化委員会や特別支援学級の生徒が中心となり、以下のテーマ四点に取り組み成果を残したものです。



- ② 環境緑化活動を通じてつなぐ人と人、地域と学校。
 - ③ 環境緑化活動を通して育てる優しい心豊かな人間関係。
 - ④ 教科学習とリンクした環境緑化活動。
- 短期間の取組ではありましたが、担当の小松先生の指導を原動力として、チームの具現化を図ることができました。

受賞決定後も、環境緑化を進める様々な努力を生徒・教師が各々の立場から続けています。わかば棟の庭に設置した腐葉土作りの施設や、運動場南側にそびえるメタセコイヤの選定にも取り組みました。三学期は昨年度より実施した学校林での森林学習も予定しています。

下の写真は、駐車場ロータリー南側に設置してある記念碑の様子です。全国レベルの表彰を記念しての石碑二基が樹木に邪魔されることなくその偉業を示すことになりました。



拓植や臯月が大きく成長し、碑文が読みづらくなっていた。職員作業で伐採した後、外庭掃除担当の生徒がスコップや鍬を使って根を掘り起こしてくれた。まさに根気のいる作業を粘り強くやり遂げ、「開墾」に成功。この後は来客を迎える花壇として整備する予定。

冬の主役 山茶花の生け垣が赤く染まり

本校の外壁にはブロック塀が無く、代わりに山茶花の生け垣が大規模に植えられています。秋口までは、茶毒蛾の幼虫に神経を注ぐ日々が続いたのですが、冬の到来とともに山茶花が開花



しました。中には白い花もありますが、ほとんどが濃いピンク色に近い「赤」で緑の葉をしのぎ鮮やかさが一層際立っています。椿と違い、花弁が一枚一枚と散り道路にも広がっています。朝のボラン

ティア活動や、昼の掃除で綺麗にしてくれる生徒の皆さんに感謝です。校庭の水仙も春を待たずに白く可憐な花を咲かせました。まだ数は少ないようですが、香りも併せて楽しむことができます。

夏場には多種多様な昆虫を見かけましたが、さすがにこの季節は少ないようです。コガネグモが寒さに耐えるように巣を補修していました。寒さはこれからが本番を迎えます。



「植木学校」に学ぶ その③

NHK大河ドラマの「西郷どん」が最終回を迎えました。西南戦争の場面で、田原坂や吉次峠などは描かれていましたが、植木学校につながるキーワードとして「協団体」が一度使われたくらいで、「宮崎八郎」たちの登場を期待したものとしては残念。

しかし、十二月一日に開催された本校の学習文化発表会において、若く凛々しい「宮崎八郎」や「西郷どん」に会えたのは感激でした。劇中であつたように、八郎や西郷の意志をしっかりと受け継ぎ、平和で一人一人が豊かに暮らせる社会を作ってほしいもの。歴史上、最後の内戦が行われた植木の地、五霊中学校で学ぶ一人一人に課せられた使命ではないでしょうか。

最後までご覧頂きありがとうございました。